

会

報



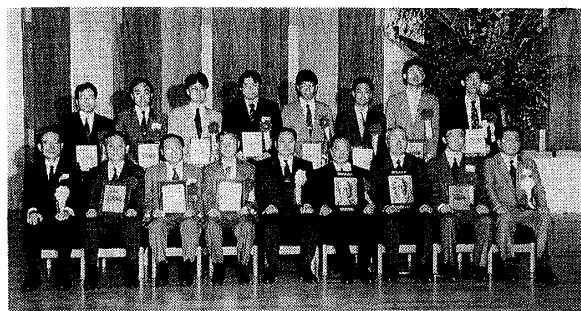
平成8年度 日本生物工学会 年次大会 後記

日本生物工学会の平成8年度大会は、平成8年10月2日（水）より4日（金）まで、名古屋大学の豊田講堂（授賞式および受賞講演）および工学部講義室（第1会場～第10会場）で開催された。3日間にわたって一般講演543件、シンポジウム8課題40件、日韓セミナー8題、受賞講演5件、合わせて596件の講演が行われた。参加数は会員、非会員を含めて約1350名であった。

また、展示は33社の協力を得て一般講演会場に隣接したセミナー室3室を使用して行われた。

第1日には、午前中に授賞式があり、児玉徹会長の挨拶、各賞受賞選考経過報告のあと、生物学賞（九州大学農学部藤尾雄策教授および大阪大学工学部の山田靖宙教授）、江田賞（協和発酵、福田和郎氏）、照井賞（九州大学農学部、田中賢二氏）、技術賞（ダイソー、笠井尚哉、鈴木利雄両氏）、論文賞（久野智弘氏ら、八木清仁氏ら、高木邦明氏ら、石原克哉氏ら、本多裕之氏ら）、が授与された。なお、本年度は斉藤賞は該当者なしとして見送られた。次いで、名誉会員推戴式が挙行され、戸田清氏、永井史郎氏、今中宏氏の3氏が名誉会員となられた。次いで、藤尾雄策教授より「微生物機能の環境、食品への利用に関する研究」、および山田靖宙教授の「微生物二次代謝物質に関する生物有機化学的研究」と題した生物学賞受賞講演があった。初日午後より第3日までシンポジウム、一般講演いずれも例年通りプログラムに従って、滞りなく進行した。平成8年度大会の特徴を思いつくまに列記すると、1) 日本生物工学会の中部支部が一昨年設立されて、中部支部が初めて責任を持って担当した年次大会であり、中部支部の会員、とりわけ名古屋大学の会員の方々の大会運営への協力が大であった。2) 中部地区の関連企業に、協賛金、要旨集への広告掲載、自社製品の提供、展示会場への出品等で協力をお願いしたところ、76社から協力が得られた。とくに、支部独自で要旨集への広告掲載を働きかけたのは、学会と

しても初めての試みであったと思う。23社の広告が要旨集の前付と後付に掲載された。3) 多くのシンポジウム会場が立ち見席がでるくらいに大変盛況であった。シンポジウムの企画が良かったからだと思われる。企画をされた先生方に深く感謝します。4) 第2日の夕方に、名古屋大学南部食堂で行われた懇親会には約420名の参加者があり、大盛況のうちに終了した。場所が大学生協食堂であったので、見映えは若干悪かったが、場所代が安くその分参加費を低くすることができかつ料理代へまわせたので、参加者には十分食べていただき満足してもらったと思っている。また、中部地区の日本酒や焼酎を多量に提供でき好評を得た。懇親会では、平成9年度大会は東日本支部主催で東京農業大学で行われる旨、小泉淳一先生のご挨拶があった。5) 年会における初めての試みであるが、名大の大学院学生と生物化学工学若手の会が中心になって、懇親会と同日同時刻に学内の別の場所（理系食堂）で若手の会が開催された。62名の参加があり、気楽な雰囲気で大いに盛り上がり、全国若手の交流に有益であった。6) 大会総受付を新築の工学部新1号館の広々とした玄関で行ったので、初日の受付の混乱もなく参加者に好評であった。しかし、受付の建物と主な講演会場および大会本部を置いた工学部7号館と離れていたため若干不便であった。7) 大会中には8種類の各種委員会が行われた。会場の確保には困らなかったが、1つの委員会について、主催者が参加者へ連絡した案内と大会実行委員会が聞いていた委員会名が異なっていて、混乱したようである。8) 会場の最寄りの地下鉄



受賞のみなさん

駅からバスで名大前へ来られた参加者から、バス停から会場への案内が不十分であるという苦情があった。会場外の案内が不十分であった点を反省している。

今回の大会は中部地区の多くの大学、企業の方々の御協力に支えられて無事終了出来た。また、本部をはじめ各方面から多大な御協力と適切な御助言、御教示を頂きました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

平成8年度 大会実行委員長 山根 恒夫

日本生物工学会 第4回囲碁大会報告

本年も日本生物工学会大会に合わせ、第4回囲碁大会児玉会長杯を開催致しました。

丸山明彦先生が、腕自慢20名を抑えて3年振り2度目の栄冠を獲得されました。

平素は温厚篤実そのものの丸山先生が、紅いオーラを放しつつ勝ち進む姿は、まさに鬼神のようでした。他の方々も、手筋・勝負・親睦・飲み物 と、思い思いの方法で手談を楽しんで頂きました。

開催に当たっては、児玉会長から立派な優勝杯、大関鋭殿から貴重な飲み物、オリエンタル酵母工業株式会から参加賞、サクラ精機株式会から進行係、㈱千代田製作所から賞品・進行役のご芳志を賜りました。

また柿沼先生・飯島先生他、名古屋大学の諸先生方から、ご多忙中にもかかわらず会場設営その他ご尽力を賜り、改めて御礼申し上げます。

この催しもはや4回を終了し、ようやく定着の兆しが見えてきたように思います。より多くの方々の参加と御支援をお願いいたします。

記

開催日時：平成8年10月2日

(日本生物工学会年次大会初日)



囲碁大会会長杯授賞

開催場所：名古屋大学工学部新1号館

対戦方法：ハンディ戦、変則スイス方式、3回戦（時計を使用。持ち時間25分）。

大会参加費：2000円

入 賞：優 勝 丸山明彦（協和発酵工業株式会）

準優勝 黒木猛熊（日本生物工学会）

3 位 鈴木智雄（宇都宮大学）

参加賞 入賞者以外全員

委員長 岡崎 光雄（信州大学）

幹 事 黒岩 巖（㈱千代田製作所）記

平成8年度 第1回編集委員会議事録

1. 日 時 平成8年10月2日（水）

12時30分～13時20分

2. 場 所 名古屋大学工学部新1号館 713号室

3. 出席者 児玉 徹・岡 徹夫・新名 惇彦

飯島 信司・植田 充美・卜部 格

大竹 久夫・岸本 通雅・五味 勝也

清水 和幸・*清水 昌・園元 謙二

高木 昌宏・*長澤 透・*中原 忠篤

*仁平 卓也・古川 憲治・本多 裕之

山本 憲二・*依田 幸司

編集幹事 大政 健史・*中島 幹男

*印 委任状

4. 議事の経過および結果

児玉会長の挨拶に続いて議事に入った。

第1号議事 編集状況報告

卜部 格編集担当理事は、平成8年度上半期の和文誌および英文誌の原稿受付状況、投稿数と掲載数について次のように報告した。①和文誌への投稿原稿が減少傾向にあり懸念されること ②英文誌は資料の通り投稿数、掲載数も上向きで、また impact factor 数も上昇傾向にあること。

第2号議事 和文誌の改革案について

植田充美委員は、①生物工学会誌の紙面のビジュアル化 ②投稿者の執筆意欲 ③特色ある会誌作りなど、改革案を説明し改革案作成のための準備委員会組織編成を提案した。この提案に対し、改革の具体案について質疑応答があり、協議の結果、会員増や会の活性化に大きく貢献するとして、提案を承認し組織編成を清水 昌・植田委員に一任することを決めた。

第3号議事 英文誌の目次について

卜部 格編集理事は、現行の目次に ORIGINALS

や NOTES とある見出しを FULL PAPERS または REGULAR PAPERS に改変することを提案した。この提案に対して検討した結果、編集理事に一任することにした。

第4号議事 その他

1. トピックス委員の委嘱について：植田委員（清水 昌委員の代理）は、平成9年のトピックス委員を資料の通り委嘱したいと提案した。この提案に対して検討した結果、原案の通り幹事1名、委員10名の委嘱を承認した。
2. 電子化の現状について：大政健史編集幹事は、本会の電子化の現状は英文誌へのフロッピー投稿は軌道に乗りつつあるが、和文誌は電子化の標準的手法が英語ほど定まっていないので、軌道に乗るまでには若干時間が必要であると報告した。また、ホームページは、英語版、目次、medline との接続、講演要旨の電子媒体、その他事業案内など早急に具体化すべきであると提案した。この提案に対し、当面外部に委託するなど検討することにした。

平成8年度 第3回理事会議事録

1. 日 時 平成8年10月3日（木）
12時30分～13時20分
2. 場 所 名古屋大学工学部新1号館 713号室
第2委員会室
3. 出席者 児玉 徹・岡 徹夫・新名 惇彦
天知 輝夫・*飯島 信司・卜部 格
大竹 久夫・木村 光・塩谷 捨明
*清水 昌・隅野 靖弘・谷口 誠
蓼沼 誠・*土佐 哲也・*冨田 房男
冨塚 登・中原 忠篤・西山 徹
古川 謙介・松村 正利
監 事 田中 渥夫・布川弥太郎
陪席者 小泉 淳一・中西 載慶

*印 委任状

4. 議事の経過および結果

塩谷捨明庶務理事は、理事の出席数（本人16名、委任状4名）を確認して理事会の開催を宣した。続いて児玉会長の挨拶があり議事に入った。

第1号議事 平成8年度上半期事業報告

- 1) 庶務、事業報告：塩谷捨明庶務担当理事は、資料 p. 1～6 に基づいて事業、会議開催状況、支部活動状況および会員異動状況について報告した。
- 2) 編集報告：卜部 格編集担当理事は、資料 p.

7～8 に基づいて原稿受付状況、投稿数と掲載数ならびに編集委員会の決議事項について次のように報告した。①和文誌を改革するために改革準備会を発足する ②英文誌の現行の目次体裁を改める ③電子化を更に促進する

- 3) 会計報告：隅野靖弘会計担当理事は、資料 p. 9～10 に基づいて収支状況、貸借対照表を報告した。経理状況は昨年同期比では概ね順調であるが、会費収入および事業収入を昨年の10%～15%アップで予算化しなければ収支のバランスがとれない状況にあり決算時までには会員増および広告収入を大幅に増やす必要があると分析、報告した。
- 4) その他：①新名惇彦副会長は、資料に基づいて第1回活性化委員会の報告を行った。②塩谷理事は、役員の推薦および選挙、Biotechnology Progress の購読料について資料に基づいて報告した。また、会費の自動引き落としを来期の会計から導入すべく準備中であると報告した。③谷口理事は、次回の日韓セミナーは、平成9年4月11日、バイオセパレーションをテーマに韓国で開催することを報告した。

第2号議事 次期評議員候補者推薦委員会について

塩谷理事は、細則第8条(2)による推薦委員の選出について諮った結果、推薦委員は会長、副会長、5名の常任理事および東京近郊在住の理事3名の計11名で構成することを決めた。

第3号議事 平成9年度の事業計画について

木村 光企画担当理事は、資料に基づいて平成9年度の年次大会、生物工学シンポジウムおよび生物工学技術セミナーの計画案を説明して承認された。しかし、年次大会の開催については不確実な要素があり、小泉淳一東日本支部長代理および中西載慶氏の陪席を要請して、東京農業大学（年次大会会場）との会場数、開催日時など交渉内容の説明を受けた。説明に基づいて協議した結果、今後の交渉を小泉支部長代理に一任することを決めた。

第4号議事 第2種研究部会の申請承認について

塩谷捨明庶務担当理事は、資料に基づいて4件の第2種研究部会の交付金申請内容を説明し、申請の承認を求めた。

説明に基づいて検討したところ、1件5万円とし4件の申請を承認した。

第5号議事 職員就業規則の承認について

天知輝夫理事は、資料に基づいて職員の就業規則ならびに職員給与規則案について説明した。説明に基づいて検討した結果、原案の通り承認した。

平成8年度 第1回評議員会

1. 日 時 平成8年10月4日(金)
12時30分～13時20分
2. 場 所 名古屋大学工学部新1号館 424室
第1委員会室
3. 出席者 雨村 明倫・天野 義文・*何森 健
石川 尊・*伊藤 昌雄・*今中 忠行
*海野 肇・上島 孝之・大石 邦夫
*大嶋 泰治・大橋 武久・大宮 邦雄
*岡本輝公彦・岡本 六郎・小川喜八郎
小川 隆平・*荻野 重男・甲斐 学
加藤 暢夫・神尾 好是・*川村 吉也
*栗山 一秀・越野 昌平・小林 猛
*向阪 正信・*新家 龍・清水 和幸
*杉山 晋一・関口 順一・竹内 昌男
*竹中 登一・谷 浩祥・*谷 吉樹
辻阪 好夫・*坪井 俊紀・綱澤 進
徳山 泰・*富永 嘉男・*戸田 清
中西 一弘・*中村 紀雄・中桐 義隆
長岡 行蔵・西沢 義矩・*野田 秀夫
橋本 直樹・原 昌道・播磨 武
藤尾 雄策・*古橋 敬三・松永 是
*三島 秀夫・宮本 和久・柳本 正勝
藪内 精三・山縣 民敏・山崎 真狩
山根 恒夫・山本 修司
監 事 田中 渥夫・布川弥太郎
陪席者 児玉 徹・岡 徹夫・*新名 惇彦
卜部 格・塩谷 捨明・*清水 昌
隅野 靖弘

*印 委任状

塩谷捨明庶務担当理事は、評議員の出席者(本人26名, 委任状21名)を確認して評議員会の開会を宣した。なお、定款26条により議長選出について諮ったところ、

小林 猛氏を議長に選出した。

議長および会長の挨拶があり、議事録署名人に山根恒夫、大宮邦雄の両氏を指名して議事に入った。

第1号議事 平成8年度上半期事業報告の承認

- 1) 庶務, 事業報告: 塩谷捨明庶務担当理事は、資料 p. 1～6 に基づいて事業、会議開催状況、支部活動状況および会員異動状況について報告した。
- 2) 編集報告: 卜部 格編集担当理事は、資料 p. 7～8 に基づいて原稿受付状況、投稿数と掲載数ならびに編集委員会の決議事項について次のように報告した。①和文誌を改革するために改革準備会を発足する ②英文誌の現行の目次体裁を改める ③電子化を更に促進する
- 3) 会計報告: 隅野靖弘会計担当理事は、資料 p. 9～10 に基づいて収支状況、貸借対照表を報告した。経理状況は昨年同期比では概ね順調であるが、会費収入および事業収入を昨年の10%～15%アップで予算化しなければ収支のバランスがとれない状況にあり決算時までには会員増および広告収入を大幅に増やす必要があると分析、報告した。
- 4) その他: 塩谷理事は、理事会の決議事項を以下の通り報告した。

- (1) 平成9年度の年次大会、シンポジウム、技術セミナーの計画 (2) 第2種研究部会の承認 (3) 職員就業規則案の承認 (4) 会費などの自動引き落としの導入

第2号議事 次期役員候補者推薦委員会について

小林議長は、標記委員会のメンバーについて以下のように説明した。去る6月17日開催された次期役員推薦委員のメンバーは、標記委員を兼務するものとする、として評議員から投票により選出された。従って標記委員は既に決定されておりまた、開催時期については、当該委員と相談の上決めたいとのべ、承認された。

第3号議事 その他

委員から会員の増加策、学会誌の改革および事業運営に対する確認や激励など多くの発言があった。